

受入先	NPO 法人穎娃おこそ会
役職	
隊員氏名	小野寺 宗貴
着任日	令和 5 年 7 月 1 日

活動月	令和 7 年 12 月（着任 2 年 6 カ月目）
主な活動	1 JR 九州の方々との話し合い 2 今後の展望について

1. JR 九州の方々との話し合い

令和 5 年 12 月に、JR 九州より指宿枕崎線の今後のありかたについて協議したいとの申し入れがあって以降、地域住民の代表する方や高校生とのワークショップを行うなど、様々な取り組みを行ってきました。

令和 8 年より同路線の実証事業を行うこととなり、その中に西穎娃駅を活用した取り組みも入ることになりました。

どのような取り組みをするか、同社の方々と話しながら決めておりますが、その一環で、イベントを通じて地域にどのような需要があるのか見ていくことも含んでいます。

実証事業で得られたことを織り交ぜながら、駅改良工事をするにあたり、地域住民の方が利用しやすい駅にするには、をテーマに取り組んでまいります。

現在のところ、来年 2 月に開催する駅弁イベントについて話し合いを行っておりますが、他のイベントもしていくことを考えております。

また、沿線で遊休となっている施設を同社の方々とともに視察し、活用の可能性やその方法を話し合うなど、連携を深めつつあります。



写真：西穎娃駅や沿線の遊休施設での打ち合わせの様子

2. 今後の展望について

令和8年6月末で任期終了を迎えるにあたり、指宿枕崎線を活用した地域活性化について今後の展望を書いていきたいと思います。

目標は、「点」となっている場所を、路線を使って「線」としてつなげていくことです。

指宿枕崎線は、かつて日本最南端の鉄道路線であり(現在は沖縄県のモノレール)、今でもJR最南端路線として知られています。

古くから鉄道好きな人たちの間では知られていますが、最近は最南端にある西大山駅などが観光スポットになっており、観光客が多くいらっしゃいます。しかしながら、同駅を訪れる主な交通手段は自動車や観光バスとなっており、沿線にある観光地への利用手段も同じような傾向となっています。

列車利用には、「指宿のたまて箱」といった観光列車のように、列車 자체に乗ることをする目的とするものと、通勤や通学のほかに沿線の観光地に行くことを目的とするものの二つがあります。

前者は観光列車を導入したからといって利用者数が劇的に増加する見込みが立たないことや、関係各所の調整が必要になりますが、後者は地域の方々との連携を深めやすいことや、点から線につなげていける可能性を秘めています。

昨年度ですが、地域の方々向けに作成した沿線の名所を紹介したガイドブックの編集や、SNS投稿を通じた情報発信を担当させていただきましたが、継続して取り組んでいくことの大切さを痛感しています。

また、今年度に入り、西頬娃駅で数年ぶりにイベントを行いましたが、予想をはるかに上回るお客さまが来場されて楽しまれたことからも、「点」となる場所を作っていくことの大切さを感じています。

来年から実証事業が始まりますが、西頬娃駅が沿線の「点」となり、鉄道を利用しなくても楽しめる場所にすることが目標であり、展望の一つです。

